



前期訪問まとめ号②



前期訪問でお聞きした各校の取組を紹介します。 良好であったこと（○） 次へのSTEP（★）

研究および研究推進について

○教職員みんなの研究にする工夫（共有化・可視化）

- ・年度はじめに児童生徒の実態、めざす姿、研究の方針、育みたい資質・能力などについて教職員みんなまで話し合っている。
- ・研修の時間に個々の実践を省察し合い、悩みを共有し合うなど、対話を大切にした研修を取り入れている。
- ・話し合う際のグループのメンバー（異年齢・異（同）教科など）を柔軟に入れ換えている。
- ・ICTを使って資料や実践内容を共有したり、協議内容や検討したことを研究だよりにまとめている。

○日々の授業の充実に向けた授業研究

- ・授業公開週間を設定したり、授業参観・事後研究会のグループを少人数にしたりして気軽に授業を見合う機会を増やしている。
- ・教科の見方・考え方を働かせた学びを授業づくりの視点に入れている。
- ・事後研究会では、授業者や参加者が学んだことを言語化する時間を設定している。
- ・教職大学院や大学などの外部機関と連携し、児童生徒の学びの姿を見取る授業参観・事後研究会をすすめている。

★児童生徒の実態を十分把握し、研究の視点や手立てを絞って取り組みましょう。

生徒支援について

○教科指導と生徒指導の一体化

- ・「自己存在感の感受」「共感的人間関係の育成」「自己決定の場の提供」の生徒指導上の3つの機能を生かした「わかる授業」を展開している。

○教師と児童生徒との合意形成

- ・部活動の終了時刻やインターネット利用のスマートルール、校則の見直し等について、児童生徒の意見に耳を傾け、話し合いながら決めている。

○不登校への対策

- ・不登校児童生徒に対する対策が教育計画に明記されている。その際「福井県不登校対策指針」を参考にしている。

○SOSの出し方に関する教育の実施

- ・PTAと連携し外部講師を招聘して実施している。

★生徒指導提要の改訂にともない、生徒指導全体計画や推進計画の見直しを図りましょう。

（「させる」から「支える」への転換）

★自校の「いじめ防止基本方針」を読み直しましょう。

人権・同和教育について

○安心して学べる学校

- ・授業づくりシート①を活用し、日常の授業において人権教育の視点を生かして研究が推進されている。
- ・授業づくりシート①を用いて、定期的に振り返りをしたり、授業研究の協議を行ったりして、児童生徒にとって「わかる」授業づくりを行っている。
- ・定期的に学級で人権目標を決めたり、人権に関わる発表について学級で話し合い、人権集会を行ったりするなど、児童生徒主体の取組を行っている。
- ・「ありがとうカード」、「今週のいいね」、「人権きらきらタイム」など、お互いの良さを認め合う活動を行ったり、縦割り班活動で、子ども同士が感じたことを交流する時間を活動後に毎回設けたりして、思いを伝え合う活動を行っている。

○職員研修の工夫

- ・1つのテーマ（例：部落問題、障がい理解教育）について、全教職員が同じ内容の研修をするのではなく、そのテーマの中で教職員個別のニーズに合わせてグループを作り、グループで研修を行っている。
- ・人権教育研修講座を研修計画に組み込み、全教職員で参加している。

★児童生徒の活動において「自己選択・自己決定の場を設定する視点」を持って、取り組みましょう。（人権・同和教育の視点と具体的な取組例一覧表参照→QRコード）



管理職懇談より

○人材育成

- ・管理職が日常的に授業を参観し、授業のアドバイスをしたり早めの支援に繋がったりしている。
- ・若手教員に積極的に主任を任せ、管理職や教務主任がその主任を支援している。
- ・校内研究グループの編成を工夫し、グループで若手教員を支えるようにしている。
- ・職員室の座席を若手教員が相談しやすいように配置している。

▲人員の不足によって現場の負担が増している。

○学校DX化の推進

- ・ICTの業務への日常的な活用が広がっている。（多かった例：C4thの活用、Teamsによる連絡や情報共有、ペーパーレス化、formsによるアンケートの実施）

▲ソフト、アプリケーションの導入や契約更新に関する事務的、金銭的な対応が難しい。

○学校教育目標やスクールプランの児童生徒との共有

- ・学校教育目標やスクールプランの意味や意図を、児童生徒の発達段階に合わせて繰り返し伝えられている。
- ・目指す児童生徒の姿が見られた場面を捉え、全教職員で積極的に価値づけを行っている。

○時程の工夫

- ・午前中40分授業×5コマの時程を試験的に実施している。（小学校）
- ・全ての休み時間を15分間とし、児童生徒同士の交流が進むようにしている。
- ・週に1回、5時間授業+部活動を行うことで下校時刻を早めている。（中学校）
- ・部活動の終了を通年で同じ時刻に設定している。（中学校）